

國學院大學學術情報リポジトリ

創刊の辞

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阪本, 是丸, Sakamoto, Koremaru メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2353

創刊の辞

國學院大學 校史・学術資産研究センター長 阪本 是丸
研究開発推進機構

國學院大學は、明治十五年における皇典講究所の創立を出発点とする、歴史ある私立の研究教育機関である。その同年十一月四日の開齋式における皇典講究所初代総裁・有栖川宮職仁親王の告諭には、「凡學問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ故ニ國體ヲ講明シテ以テ立國ノ基礎ヲ鞏クシ徳性ヲ涵養シテ以テ人生ノ本分ヲ尽スハ百世易フベカラザル典則ナリ」という、本学の学問を貫く確固たる精神が示されている。さらに同二十三年には、皇典講究所を経営母体として、専ら「國史、國文、國法ヲ攻究」し、「海外百科ノ學モ網羅兼修シテ此學ノ進歩擴張ヲ計ル」ための学校として國學院が設置された。以後國學院は、同三十七年に専門学校令による私立國學院となり（同三十九年に私立國學院大學）、大正八年には「私立」を削り國學院大學と改称して同九年に大学令による大学に昇格し、同十二年に校地を飯田町から渋谷に移転するなど、紆余曲折を経つつも、不易の国学的学風を貫きここまで年輪を刻んで来たのである。

その校名に冠する「国学」とは、「古典を講じ神道を究め汎く人文に関する諸学の理論及び応用を研究教授し、以て有用な人材を育成し文化の進展に寄与する」（学校法人國學院大學寄附行為）第三条）総合的な学問の謂いに他ならず、この学問の道統・使命を近代に継承し、現代に発展させている稀有な研究教育機関が國學院大學なのである。

これまで、本学では、長年に亙り、大学事務局の一課である校史資料課（現・研究開発推進機構事務課）のみが学内の校史資料の保存・管理・展示・刊行物編纂などに当たってきたものの、本学所屬の専任教員や若手研究者らが、この事務系統の組織と密接に連携しつつ校史に関する研究・教育を行ない、その成果を広く社会に発信し還元するとう、本格的な「大学アーカイヴズ」活動を構想出来るような体制には無かった。しかし、本学では創立百二十周年の

平成十四年を契機に、建学の精神である「神道精神」に基づいて「國學院大學二十一世紀研究教育計画」を策定し、新たな研究体制の中軸を担う機関として、平成十九年に研究開発推進機構を発足させた。その機構を構成する共同利用研究機関の一つとして、校史・学術資産研究センターは新設されたのである。

本センターでは、①校史に関する研究、②本学所蔵の学術資産に関する研究、③資料の収集、整理及び展示、④折口（信夫）博士記念古代研究所並びに河野（省三）博士記念室及び武田（祐吉）博士記念室に関する資料の研究、⑤研究成果の公開及び本学の教育活動への支援、⑥その他、本センターの運営に必要な事業、を行なうこととしている（「校史・学術資産研究センター規程」第三条）。即ち、平成二十年度から開始した研究事業である「國學院大學における大学アーカイヴズ体制の構築」や「國學院大學の学術資産の研究と公開」という事業名が示しているように、本センターにおいては、「校史研究」と「学術資産研究」という大きく二つの柱を立てており、このことが、他大学の大学文書館や大学史資料センターの在り方とは一味異なる特徴となっている。

このように、本センターでは、本学の校史資料に加え、長年本学が収集してきた学術資産をも広く研究対象に含めることによって、皇典講究所・國學院の校史を単なる「学校史」という範疇でのみ捉えるのではなく、そのまま日本の伝統文化研究を中核とする総合的学問ともいえるべき「国学」やその展開としての近代日本における諸学問の歴史の中に積極的に位置付けることを企図しているのである。

この度、本センターにおける研究成果を発信する機関誌として『國學院大學 校史・学術資産研究』を創刊する運びとなった。本センターは離陸したばかりで、未だ万全の研究教育体制が整っているとはいえない。しかし現在、本センターの構成員を中心として、徐々に丹念な検証作業が蓄積されつつある。今後、一年の研究の集大成を発表する場となる本誌が号数を重ね、本学の校史・学術資産研究が飛躍的に進展して行くことを大いに期待したい。